



チャレンジ!

## 地図マスターへの道

●東京都杉並区立天沼小学校 指導教諭 新宅直人

# 3年生から伸ばす地図スキル 「広く見わたす地図 東北地方」を活用して

スモールステップで自然に地図活用力が身に付く「地図マスターへの道」

『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』(以下、地図帳)には、多くのページに「地図マスターへの道」というコーナーがあります。このコーナーでは、該当ページの地図を使った問題が2～3問設定されており、さまざまな種類の活動に挑戦することができます。「地図上から必要な情報を探し出す問題」が最も多く、その他には「地図の基本的な使い方に関する問題」や、「説明したり理由を考えたりする発展的な問題」もあります。問題は全部で80問あり、それぞれの問題には1～3の「レベル」が設定されているため、子どもたちの発達段階に応じて取り組ませることができます。1問あたりに必要な時間はそれほど長くはないため、授業の導入に取り組んだり、家庭学習で行ったりするなどいろいろな活用方法が考えられます。3～6年生の4年間で継続的に「地図マスターへの道」に取り組むことで、確実に地図活用能力を積み重ねることが期待できます。

### 「広く見わたす地図 東北地方」について

今回は、3年生を想定した授業実践を紹介します。地図帳p.25～26「広く見わたす地図 東北地方」には「地図マスターへの道」として二つの問題が示されています(図1)。①の問題はレベル1で、東北地方の大きなまつりを五つ探すというものです。五つのまつりのイラストもヒントとして掲載されているため、難易度は低めです。②の問題がこの授業の中心となる課題で、地図帳を使

うえでの大切な要素である「さくいん記号」の使い方を身に付けます。今回は、この二つの問題を中心として、45分間の授業展開例を紹介します。



図1 p.25～26 「地図マスターへの道」  
『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』

### ①導入 東北地方の県の確認

授業の導入では、地図帳p.25～26を開き、東北地方の県名や県庁所在地について確認します。この「広く見わたす地図」は3年生でも分かりやすく、そして楽しく読み取ることができるように情報量が調節してあります。また、イラストも多く、いろいろなことに気付くこともできます。場合によってはp.116～117に掲載されている「都道府県の区分」を見て、東北地方がどこからどこまでの範囲を指すのか確認するとよいと思います。また、「東北地方の県に行ったことがある人はいますか？」などと子どもたちに問いかけ、各県を訪れた経験を発表させてもよいでしょう。

### ②「地図マスターへの道」①まつり調べ

いよいよここから「地図マスターへの道」に取

り組みます。「東北地方の大きなまつりを五つ探してみよう」と指示を出し、それぞれのまつりが何県にあるのかも確認させます（**図2**）。



**図2** まつりを探し、何県のまつりかノートに書く

2～3分間取り、もし見つけられていない子がいたら近くの子に教えてもらうように指示を出します。子どもたちは、それぞれのまつりがどのような様子か関心をもつので、実際のまつりの写真や動画を用意しておき提示すると、イメージがふくらみ大変効果的です。

### **③「地図マスターへの道」②さくいん記号**

次に、「さくいん記号」についての問題に取り組みます。しかし、3年生ということもあり、まだ「さくいん記号」を使いこなせていない子がクラスにいる場合は、地図帳p.17に使い方の説明が書かれているので補足するとよいと思います。

ヒントなしで探せる子は自力で探させ、地図を読むのが苦手な子は教師が「**26E4**」の探し方を机間指導のときに助言しましょう（**図3**）。



**図3** さくいん記号から場所を探す子

しばらく時間を取ったら、正解だと思ふ果物を発表させて答えを確認します。教室にデジタル地図帳があれば、「**26E4**」を拡大して提示するとより分かりやすくなります。

### **④さくいん記号を使った「ここはどこでしょうクイズ」で習熟を図る**

さくいん記号は一度使っただけでは定着しにくいので、何度も繰り返し使って慣れることで、該当の場所を見つけるのが早くなります。そこで有効なのが「ここはどこでしょうクイズ」です。まずは教師が児童用タブレットに、**図4**のような問題を送ります（児童用タブレットを使用せずに、教室のスクリーン等で提示してもよいです）。



**図4** 教師からの問題（2問）

「この場所は、p.25～26のどこにあるでしょう？ さくいん記号を使って答えましょう」と指示を出します。正解は、①が「**25E3**」、②が「**26E5**」になります。このような問題を何問か出題して探すうちに、だんだんが見つかるのが早くなってきます。

慣れてきたら、子どもたちがクイズを考えてもよいと思います。「地図マスターへの道」の問題を参考にして、例えば「**25E2**にある有名な鍋料理は何でしょう？」のようにクイズを出し合うと子どもたちは熱心に取り組めます。

このように、授業で「地図マスターへの道」に取り組ませる際には、その問題だけで終わりにせず、学んだ知識を生かして次の活動につなげていくことも有効です。